

## 2021年度 データサイエンス・スタンダード 自己点検・評価報告書

本学の数理・データサイエンス・AI 教育(リテラシーレベル)の認定制度として、2021年度に「データサイエンス・スタンダード」(以下「DS・S」)を開設した。以下に、データサイエンス教育運営委員会(以下「DS委員会」)による2021年度のDS・Sの自己点検・評価について報告する。

## I. 学内からの視点

## ①教育プログラムの履修・修得状況

登録者数

学科	学科／専攻	1年	2年	3年	4年	総計
経済学部所属	1、2年生	74	29			103
経済学科				11	6	17
国際経済学科				2		2
経営学部所属	1年生	59				59
経営学科	現代経営コース		8	11	5	24
	経営情報コース		10	2	1	13
	ファイナンスコース		6	2	1	9
流通マーケティング学科			13	5	2	20
コミュニケーション学科	1年生	11				11
	グローバルコース		1			1
	メディアコース		4	4	1	9
	企業コース		5	2	2	9
現代法学部	1年生	16				16
	ビジネス法プログラム		4			4
	公共政策プログラム		3	1	2	6
	消費者法プログラム		1	1		2
	総合法プログラム		4	1	1	6
	福祉法プログラム			1		1
キャリアデザインプログラム		5				5
総計		165	92	43	21	321

認定者(修了者)数

第1期 総計 17名、第2期 総計 35名、2021年度 合計 52名

学部	学科/専攻	1年	2年	3年	4年	総計
経済学部	経済学部所属	12	5			17
	経済学科			2	1	3
経営学部	経営学科 1年生	8				8
	経営学科 現代経営コース		2	3	2	7
	経営学科 経営情報コース		6	1	1	8
	経営学科 現代会計コース			1		1
	経営学科 ファイナンスコース		1			1
	流通マーケティング学科		3			3
コミュニケーション学部	グローバルコース		1			1
	メディアコース		2			2
	企業コース		1			1
総計		20	21	7	4	52

## ②学修成果

2021年度はDS・Sの初年度となるため、学修成果については正確に判断できない。

2021年度の認定状況・単位修得状況等に加えて、2022年度の履修状況等と合わせて総合的に検討したうえで判断材料を確認したいと考えている。

## ③学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

DS・Sにおいて開講している各科目の授業アンケートにおいて学生の理解度を個別に確認している。DS委員会において全学的な確認をして、次年度に向けて改善・向上について検討していく。

## ④学生アンケート等を通じた他の学生への推奨度

DS・Sは2021年度に開設したので、正確な確認はできていないが、2022年度の履修状況等から推察することは可能である。よって、2022年度中に調査をしたうえで、確認したいと考えている。

## ⑤全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

DS・Sの初年度である2021年度の履修者数・履修率を基に検討し、2022年度については対象科目や開講コマ数を増やす対応を行った。これにより、DS・Sの履修者数・履修率の向上を目指している。

## II. 学外からの視点

2021 年度から本プログラムが運用されているので、修了者の進路・活躍状況、企業等の評価については 2022 年度以降になる。

※点検予定項目

- ①教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価
- ②産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法等への意見

## III. 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

2021 年度に実施した担当教員アンケートの結果から、数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることについて、一定程度は対応していると考えられる。

ただし、まだ 1 年間のみの実績であるので、今後とも教育方法等を改善・向上させていくことが必要であると考えている。特に、DS 委員会が、全学的な調整について主導的な役割を果たすことが求められるため、「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」やデータサイエンスの関連学会等が主催するワークショップ・研究会などに参加して情報収集し、担当教員への FD を実施することが今後の課題である。

## IV. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

2021 年度の各科目の授業アンケート結果から、一定程度の理解度は得られていると考えられるが、引き続き改善・向上を目指すことが必要と思われる。この点についても、担当教員による FD を実施することが必要であると考えられる。

以上